

第 7 号

帯広畜産大学基金報告

平成28年度

帯 広 畜 産 大 学 基 金

目 次

学長挨拶	1
平成28年度帯広畜産大学基金受入実績	2
平成28年度収支決算	3
学生修学支援事業基金	
平成28年度大学基金奨学生との懇談会を開催	4
《奨学金授与者から》	
—大学基金の奨学金を授与されて—	5
大学運営支援事業	
《社会貢献活動の支援に関する助成》	
帯広畜産大学マンドリンサークル	7
帯広畜産大学吹奏楽部	9
農業サークルあぐりとかち	11
十勝カレッジS I L O (サイロ) 事業	13
賛助会員名簿及び寄附者名簿	15
大学基金寄附者に感謝状を贈呈	18
各同窓会支部会等への出席	19
大学基金運営委員会委員名簿	21
大学基金に関する規程	22



学長挨拶

帯広畜産大学の教育・研究活動に対し、日頃より皆様のご理解と暖かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

平成28年から国立大学よりお願いをしておりました税制改正が叶い、寄附者の皆様の税額が従来よりも軽減される制度が創設されました。

本学でもその制度が受けられるよう、従来の大学基金を学生修学支援事業基金と大学運営支援事業基金に分けて設置したことにより、学生修学支援事業基金を選択してご寄附いただくと税額控除が受けられるようになりました。

この優遇措置を個人寄附者の皆様へ広く周知し、本学へのご寄附を募ることを目的に、昨年度は各地で開催された同窓会等に、役員をはじめ教職員が出席させていただきました。

また、本学の同窓生が多く在籍する帯広商工会議所、十勝農業協同組合連合会、帯広信用金庫などを訪問し、お話をさせていただきました。

その他にも、卒業生・修了生の皆様、学生保護者の皆様に本基金のパンフレットを郵送させていただいたほか、教職員向けにはワンコイン賛助会員制度（※）を設け、寄附金増収に努めて参りました。

皆様のご支援のお陰により、前年比50%の増収となりましたことを、改めてお礼申し上げますとともに、寄附金は家計が困窮している学生への修学支援を中心に、大切に使用させていただいておりますことをご報告いたします。

今後も国の高等教育予算が増えることは期待できないなか、これからも充実した学びの場を提供し、意欲と能力のある学生への支援を手厚くしていくためには、恒常的に安定した財政基盤が重要となります。

引き続き皆様からのご協力を賜りたく、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

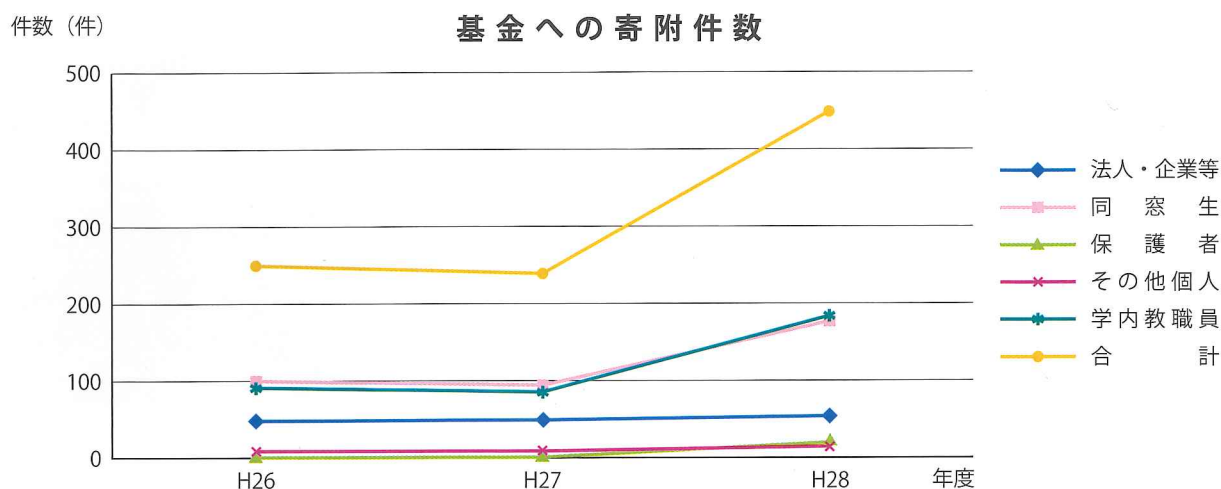
（※）ワンコイン賛助会員制度

月々の給与より、1口500円（ワンコイン）とした賛助会費を控除するもの。

何口でも設定できるほか、従来の賛助会員制度と合わせての加入も可能。

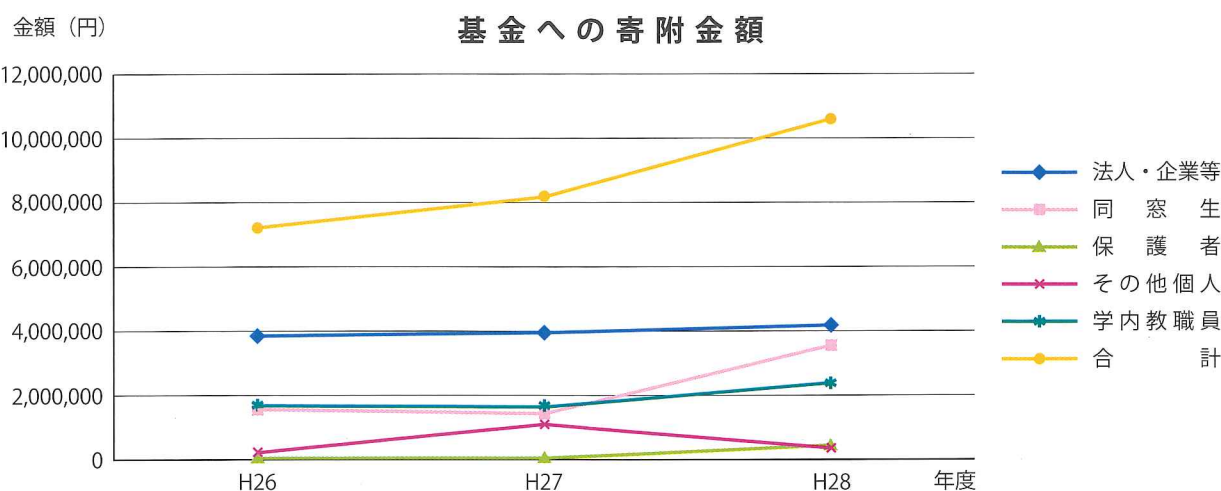


平成28年度帯広畜産大学基金受入実績



(単位: 円)

	平成26年度	平成27年度	合計	平成28年度	
	年間	年間		学生修学支援	大学運営支援
企業・団体等	50団体	51団体	56団体	35団体	21団体
学外個人	110名	104名	211名	200名	11名
同窓生	100名	94名	176名	167名	9名
保護者	1名	1名	20名	18名	2名
その他個人	9名	9名	15名	15名	0名
学内教職員	91名	85名	183名	181名	2名
賛助会員	91名	85名	102名	100名	2名
ワンコイン賛助会員	—	—	81名	81名	—
合計	251件	240件	450件	416件	34件



(単位: 円)

	平成26年度	平成27年度	合計	平成28年度	
	年間	年間		学生修学支援	大学運営支援
企業・団体等	3,870,000	3,986,000	4,040,000	1,970,000	2,070,000
学外個人	1,685,000	2,541,000	4,215,000	4,110,000	105,000
同窓生	1,575,000	1,431,000	3,490,000	3,415,000	75,000
保護者	10,000	10,000	410,000	380,000	30,000
その他個人	100,000	1,100,000	315,000	315,000	0
学内教職員	1,635,000	1,580,000	2,394,500	2,374,500	20,000
賛助会員	1,635,000	1,580,000	1,880,000	1,860,000	20,000
ワンコイン賛助会員	—	—	514,500	514,500	—
合計	7,190,000	8,107,000	10,649,500	8,454,500	2,195,000



平成28年度収支決算

収入の部

(単位：千円)

区 分	件 数	金 額
企 業 ・ 団 体 等	56	4,040
同 窓 生	176	3,490
保 護 者	20	410
そ の 他 個 人	15	315
教 職 員	183	2,394
小 計	450	10,649
利 益 収 入 等	—	3,505
合 計	450	14,154

支出の部

(単位：千円)

項 目	金 額	
学 生 修 学 支 援 事 業 基 金		
授 業 料 等 免 除 事 業	授業料免除5名, 入学料免除4名	3,920
学 資 給 付 事 業	学部生3名, 大学院生5名	4,080
小 計		8,000
大 学 運 営 支 援 事 業 基 金		
社会貢献活動支援事業	マ ン ド リ ン サ ー ク ル	100
	吹 奏 楽 部	100
	農 業 サ ー ク ル あ ぐ り と か ち	99
	十勝カレッジS I L O (サイロ) 事業	1,500
小 計		1,799
合 計		9,799

収 支	4,355
-----	-------

平 成 2 7 年 度 期 末 残 高	266,876
---------------------	---------

平 成 2 8 年 度 期 末 残 高	271,231
---------------------	---------



平成28年度大学基金奨学生との懇談会を開催

10月18日（火）本学本部棟大会議室において、奥田潔学長と平成28年度大学基金奨学生との懇談会を開催しました。

この懇談会は、同奨学生に大学基金の趣旨を理解し、有効に使用してもらうことを目的に開催しました。

最初に、基金・広報戦略室長から大学基金の奨学金は、その趣旨に賛同をいただいた企業・団体、同窓生及び教職員等からの寄附であり、奨学生の皆さんの修学に有効に活用していただくとともに、本学を卒業又は修了し、就職した際には、後輩の支援のために大学基金の賛助会員として寄附をお願いしたいとの説明がありました。

続いて、各奨学生から、自己紹介とこの奨学金に対する感謝の言葉が述べられました。

懇談会では、各奨学生の研究内容や学生生活等について話され、本奨学金を生活費、学会出席のための旅費や自身の研究内容に関連した専門書の購入費用等に使用しているとの発言がありました。

最後に、学長から「この奨学金は、全国の同窓生や企業・団体からの貴重な寄附であるので、常に感謝の気持ちを持って、これからの学業や研究など、それぞれの目指す目的に有効に活用していただきたい。また、自分の専門分野だけではなく、専門以外の分野にも関心を持ち、視野を広げていただきたい。」と激励しました。



奥田学長（前列中央）と大学基金奨学生
井上理事・副学長（後列左）、柳川理事・副学長、横町副学長・事務局長、（後列左6番目から）

《奨学金授与者から》

—大学基金の奨学金を授与されて—

「姉妹で両親に経済的負担をかけていました。」

共同獣医学課程 1年 下垣 舞林



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。私には学生の姉妹がいるので両親に負担をあまりかけられず、貸与型の奨学金と授業料免除制度を利用し、アルバイトもすることで生活していました。しかし、こちらの奨学金のおかげでアルバイトを減らし、勉学の時間を増やすことができました。私は学部1年生なのでまだ研究などには取り組んでいませんが、講義の中で特に印象に残っているのは「農畜産演習」という講義です。豚の飼育・と殺や野菜の栽培などを通して、生産活動の大変さ、命の尊さを学ぶことができました。今後も奨学金をいただいた感謝を忘れず、勉学に励んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。

「生活費工面の時間を勉学に充てられました。」

畜産科学課程 4年 岩瀬 いづみ



この度は、帯広畜産大学基金奨学生にご採用いただき、誠にありがとうございました。奨学金の給付を受けられたことで、生活費工面のために費やしていた時間を勉学に充てることができました。卒業研究ではフィールド科学センターで、「乳用牛における妊娠末期の母牛のインスリン感受性とその産子の栄養代謝状態との関係」をテーマに研究を行っています。大学からの金銭的な支援のおかげで経済的負担が減り、研究に集中することができました。大学生活を有意義に過ごすことができたのは、支援していただいた皆様のおかげであると実感しています。春からは社会人になりますが、奨学生としてご支援いただいた分、社会や大学に恩返しをできるよう、さらに努力をしていきたいと思えます。

「バイトを減らし研究に専念できました。」

畜産科学課程 4年 瀧澤 はるる



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき、心より御礼申し上げます。私は現在、風車が野生動物に与える影響について研究しています。今年度は、研究で野外調査が伴ったことや、自身の進路選択などで、あまり時間に余裕がない日々を過ごしていました。しかし、今回ご支援いただけたことにより、今までアルバイトに割いていた時間を自身の研究にあてることができました。ご支援いただいた皆様のおかげで、充実した学生生活を送ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。奨学生としてご支援いただいた分、今後は恩返しをしていけるよう、努力していきたいと思っています。この度は誠にありがとうございました。

「研究生活を支えてくれた奨学金に感謝！」

畜産生命科学専攻 1年 鈴木 あすみ



私は以前より哺乳類の形態に興味があり、現在は野生動物学研究室において「旧食虫類グループ4属における半地下適応に関する椎骨の機能形態学的比較」を研究テーマとし日々励んでいます。作業はトガリネズミ類やヒミズ類といった哺乳類の骨格標本作製し、椎骨の計測を行うという地道なものですが、多数の標本を観察することで新しい発見があったときは大変嬉しいものです。このような発見の喜びのある研究生活を支えてくださった帯広畜産大学基金の奨学金制度には大変感謝しております。末筆ではございますが、ご支援いただきました帯広畜産大学基金の賛助会員並びに寄附者ほか関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

「奨学金を頂いて生活にも余裕ができました。」

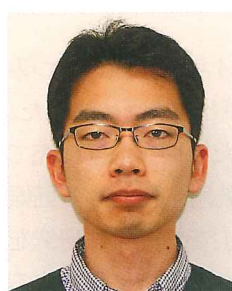
資源環境農学専攻1年 岡野なつみ



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございました。私は今年度から大学院に進学し、学部から引き続き修士としてあと2年、この帯広で勉強することとなりました。研究では、コムギのリン酸吸収能力を向上させるための育種に寄与するような知見を深めることを目的とし、圃場やハウスでの栽培から顕微鏡での観察、DNAを用いた遺伝的な解析などを行っています。今年度も多くの時間を研究に充てることができたことは、ひとえに奨学金を頂いたことで余裕がうまれたおかげだと思います。来年度は研究のまとめに就職活動と、さらに忙しくなると考えられますが、将来十勝や北海道の農業に貢献できるような人材になるため努力してまいります。

「研究に集中でき充実した生活を送ることができました。」

資源環境農学専攻1年 佐々木 晴充



この度は、帯広畜産大学基金奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。給付していただいた奨学金のおかげで、研究に集中することができ、充実した研究活動を送ることができました。私は、十勝の主要作物であるバレイショに注目し、遺伝育種に関わる研究に取り組んでいます。現在、多収量・高品質の品種育成に利用可能な遺伝変異の解明を目的にし、バレイショ DNA配列上に数多く存在する、一塩基多型と呼ばれる遺伝変異が、収量や品質に及ぼす影響について研究しています。将来的には、既存品種を上回る優れた品種の育成を目指し、十勝の基幹産業である農業に貢献できるよう、より一層日々の研究に取り組んでいこうと思います。

「アルバイトを減らし学業・研究に専念できました。」

資源環境農学専攻1年 吉川 光貴



この度は、帯広畜産大学基金の奨学生として採用して頂き、誠にありがとうございました。奨学金を頂いたおかげで、アルバイトの時間を減らし、学業・研究に充てる時間を増やすことができました。コムギには種子が収穫前に低温や長雨にさらされることで穂についたまま発芽してしまい、収量や品質を低下させてしまう「穂発芽」という障害があります。私は穂発芽被害の軽減を目指し、穂発芽耐性コムギ品種の育成に寄与する知見を得るために、「コムギの種子休眠性に関するQTL解析およびファインマッピング」というテーマで現在研究を行っています。今後も支援して下さる皆様への感謝の意を忘れることなく、研究に取り組んでいきます。

「アルバイトしなければ生活が苦しかった。」

畜産衛生学専攻1年 尾関 佑樹



この度は、帯広畜産大学基金奨学生として採用していただき、誠にありがとうございました。私は、学部時代から継続して「野鳥由来鳥インフルエンザウイルスの疫学調査および分離ウイルスの哺乳類に対する病原性」に関する研究を行ってきました。また、本年度はベトナムの国立獣医学研究所との国際共同研究にも参加させていただきました。しかし、アルバイトしなければ生活も苦しく、研究に集中することが難しい経済状況でした。そんな中、皆様に奨学金を通じて学生生活を支援して頂いたおかげで、集中して学業・研究に励むことができました。引き続きウイルス、感染免疫学分野で活躍できる人材に成長できるよう精一杯努力してまいります。



《社会貢献活動の支援に関する助成》

帯広畜産大学マンドリンサークル

帯広畜産大学マンドリンサークルは、1965年5月にマンドリン同好会として発足し、翌年正式にマンドリンサークルとして認められました。定期演奏会をはじめ、地域の方々にマンドリンによる演奏を聴いていただくため日々練習しています。現在部員は13名で活動しています。

1. イオン帯広のパフォーマーワールド (2016年4月30日)

イオン帯広にてコンサートをさせていただきました。「Yesterday Once More」や「桜坂」など様々な年代の方に楽しんでいただける曲を演奏しました。



2. 豊成保育所での演奏 (2016年9月28日)

豊成保育所でコンサートをさせていただきました。「いぬのおまわりさん」や「星に願いを」など子どもたちに親しみのある曲を演奏し、参加した子供たちに喜んでいただきました。



3. 第47回定期演奏会 (2016年11月26日)

サークル発足後から毎年開催しており、今年で47回目となる定期演奏会をとまちプラザ内のレインボーホールにて開催しました。演奏会は三部構成になっており「TSUNAMI」、「雨にぬれても」、「ジブリメドレー」など歌謡曲からアニメ曲まで多彩な12曲をマンドリン合奏し、約200名の地域の方々に楽しんでいただけました。



4. トムテの家 父母会行事 クリスマスコンサート (2016年12月12日)

芽室町にある家庭保育園「トムテの家」にて保育園児のご両親を対象とした演奏会を開催しました。トムテの家での演奏は今回で2回となります。

クリスマスコンサートにふさわしい「きよこの夜」や、「コクリコ坂から」「君をのせて」などを演奏し、30名の参加者に楽しんでいただきました。



5. 第6回 畜大ふれあいフェスティバル 畜大マンドリンサークルによるミニコンサート (2016年12月17日)

畜大ふれあいフェスティバルは、地域の方々に本学のことを知っていただくことで、大学をより身近なものへと感じていただくことを目的としています。マンドリンサークルも、ミニコンサートを開催しました。

「上を向いて歩こう」や「Yesterday Once More」を演奏し、聴いていただいた方から暖かい拍手をいただきました。



～その他の活動～

- ・入学式での演奏 (2016年4月8日)
- ・寮祭でのコンサート (2016年6月25日～26日)
- ・卒業式での演奏 (2017年3月24日)

帯広畜産大学基金からの支援で、今年も定期演奏会を開催することができました。心よりお礼申し上げます。



帯広畜産大学吹奏楽部

帯広畜産大学吹奏楽部は、1991年7月に同好会として発足して以来、スプリングコンサートや定期演奏会などいろいろな演奏会で、音楽を通してたくさんの地域の方々と交流を深めています。今年度は37名で活動してきました。12月の定期演奏会で3年生16名が引退し、現在は新体制となり4月のスプリングコンサートに向けて練習に励んでいます。

1. スプリングコンサート (2016年4月10日)

新体制になって初めての演奏会で、新入生を勧誘するために演奏しました。観客数はおよそ200名とたくさんの地域の方々にも来ていただき、感動を届けることができました。この演奏会で新入生10名が入部し吹奏楽部の活動が新たにスタートしました。



2. 夢の響演フェスティバル ~音の響演~ (2016年5月3日)

今まで参加したことがなく、私たちのことをたくさんの人に知ってもらうために、今回初めて参加しました。出演希望の新入生も一緒に演奏しました。また、大谷高校と第一中学校の吹奏楽部員とともに演奏し、パワーをもらいました。帯広市民文化ホールの大ホールで演奏し、貴重な体験をしました。

3. 新得小学校 (2016年11月5日)

新得小学校で毎週土曜日に開催される授業「新小すあてい」で演奏してくれる団体を探しているのことで私たちが引き受けました。普段、小学生と触れ合う機会がないため、「どのような曲を演奏したら喜ぶか」、「どうすれば楽しく学んでもらえるか」など、いろいろ考えながら計画を立てました。アンケート結果には、「吹奏楽に興味を持った」や「楽しかった」などの声がありました。私たちもいい刺激になりました。



4. 第24回定期演奏会（2016年12月24日）

3年生にとっては最後の演奏会なので、寂しい思いもありましたが、お世話になった部員や地域の方々に感謝の思いを込めて演奏しました。引退されたOB, OGの先輩方も参加し総勢49名で奏でた曲はたくさんの人の心を奪い「感動した」というお客さんが多かったです。観客数は260名と去年よりは少なかったのですが、悔いの残らない演奏ができました。



～その他主な活動～

- 2016年 4月 オリエンテーションでの2年生による部活動紹介
- 6月 寮祭での芸能祭ステージ出演
- 7月 第41回吹奏楽祭に出演
- 8月 第61回帯広地区吹奏楽コンクール出場（金賞受賞）
- 9月 第61回北海道吹奏楽コンクール出場（銀賞受賞）
- 10月 畜大祭でのアンサンブル演奏，出店
- 2017年 1月 第48回帯広地区アンサンブルコンクール出場（金賞受賞）
- 2月 第48回北海道アンサンブルコンクール出場（銅賞受賞）

今年度も吹奏楽部へご支援いただきました帯広畜産大学基金に、心からお礼申し上げます。



農業サークルあぐりとかち

私たちが活動している十勝地方は自然や美味しい食べ物、活気ある人々など沢山の魅力に溢れています。そんな魅力を五感で感じ、学び、伝える活動をあぐりとかちは行っています。活動を行うたびに、皆様のご支援ご協力のおかげで出来ていると実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも『十勝だからできること。十勝でしかできないこと』をモットーに、企画に関わる人たちが笑顔になるような活動を行っていきます。

1. 麦感祭 (2016年8月21日)

麦感祭は、小麦の生産量日本一を誇る音更町で行われる小麦に感謝するお祭りです。農家さんと地元企業、学生が協力して企画から運営まで行っています。6回目の開催になる今年はいにくの台風でしたが、小麦を使った料理や麦染めのファッションショー、小麦クイズを行い、麦の利用の幅を学ぶとともに、麦の恵みを強く感じられました。



2. 農林漁業学園 (2016年11月5～6日)

「十勝の美味しい産物を他県の人たちにも伝えたい」という思いから、東京都で開催される農林漁業学園というイベントに参加して、十勝産のジャガイモやパスタなど特産品5点を販売しました。映像や試食で十勝の魅力を知ってもらえる工夫をし、完売することが出来ました。予想より、ジャガイモなど十勝産の野菜を求めている方も多く、これからの農業の可能性を感じました。売り上げは台風被災地の一助となるように寄付を行いました。



3. 農家さん巡り (2016年11月～全3回)

十勝の農家さんとより交流を深めるために昨年からはまった企画です。農家さんのやりがいや熱い思いを直接聞くことができ、私たちがやるべきことについても再確認できる良い機会になりました。お互いを知ることができたので、これからもより協力し合って活動していきたいと思います。

4. 消費拡大プロジェクト (2016年4月～2017年2月)

十勝地区農協青年部協議会の方と一緒に、十勝の食材を使った商品開発を行う企画です。3年目の今年は、子ども達に十勝の食材を食べてもらいたいという思いから、給食のメニュー開発に挑戦しました。各班が工夫を凝らした料理を帯広市の給食センターと栄養士の方にも食べて頂き、実現に向けて動いています。様々な職種の方と協力して行う活動で人のつながりの大切さを実感出来ました。



5. キッズタウン (2016年10月29日)

帯広市役所が主催するキッズタウンというイベントは、子ども達に十勝の農業の良さ、大変さを模擬体験してもらう活動です。今年は、ジャガイモの収穫作業をゲーム形式で楽しみつつ体験してもらいました。農業に触れる機会が少ない子ども達にも十勝の魅力を伝えられるようにこれからも工夫していきたいと思います。



～その他今年度行った活動～

- ・親子ピザ体験教室・夏合宿・アスパラプロジェクト・Field Agrication

今年、地域への貢献が認められ、北海道新聞社から「地域げんき大賞」を頂きました。

農業サークルあぐりとかちへご支援頂きました帯広畜産大学基金と関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

なお、あぐりとかちの活動内容はFacebookにも掲載しております。



十勝カレッジSILO（サイロ）事業

この事業は、十勝の中心部である帯広市において、住民、学生、実務者らの交流による「学びあいのコミュニティ」を創出し、実践力のある人材の育成を行うとともに、実学研究の成果を社会に還元して、地域の活性化を図るため、十勝地域に存立する企業などと連携し、平成27年度から実施しています。

1. まちなか講義室

十勝地域の経営者、十勝・帯広地域にゆかりのある人材、農業生産団体関係者、食品関連企業関係者、消費者、帯広畜産大学関係者（学生及び教員）等による講義・講演、学生による学生自身が取り組む研究課題に関する講義、各種シンポジウムを開催することを目的に開催しました。

・第1回まちなか講義室（2016年6月23日）

講演者：(株)一ノ蔵 名誉会長 浅見 紀夫 氏
演題：「発酵産業による農水産業の活性化～一ノ蔵と地域貢献」

参加者数：60名（うち学生20名）



・第2回まちなか講義室（2016年8月12日）

講演者：モンゴル国立大学 Nyamkhuu, Batdelger 准教授
演題：「モンゴル・アジアにおける羊肉・食肉の生産・流通・加工」

参加者数：80名（うち学生45名）



2. 第2回「十勝ジンギスカン会議」（2016年8月12日）

帯広中央公園（帯広市西3・4条南6・7丁目）において、2回目となる「十勝ジンギスカン会議」を開催しました。

このイベントは、地元において多くの市民に親しまれている美味しいジンギスカン店や焼き肉店があることを全国にアピールし、ジンギスカンを通して学生や市民、企業、生産者が交流を図り、地域の活性化につなげることを目的として開催しました。



開催に当たっては、出店依頼に学生が焼き肉店などをまわり、昨年をうわまわる17店舗が参加し、チケットは1,500枚以上売れました。

当日は、約50人の学生が司会や会場設営、炭おこしなどの運営に当たり、家族連れや仕事帰りの市民が、焼き台を囲み、各参加店舗自慢のジンギスカンを食べ比べながら、楽しく交流を深めていました。



3. 「とかちマルシェ」に出店（2016年9月3日）

JR帯広駅北側・南側で開催された十勝最大の食と音楽のイベント「とかちマルシェ」（とかちマルシェ運営協議会主催）に出店し、畜大牛乳、畜大牛乳アイスクリームと本学の職員や各研究室で永年受け継がれている秘伝のタレの試作品、「ちくだいジンギスカンのたれ」を販売しました。



4. 「ちくだいジンギスカンのたれ」の開発

平成27年度第1回の「十勝ジンギスカン会議」で、本学の職員や各研究室で永年受け継がれている秘伝のタレの味比べアンケートをとり、一番人気だったタレの試作品、「ちくだいジンギスカンのたれ」を試験販売しました。

平成28年度は、「とかちマルシェ」で試作品を販売（製造は北海道内企業）。購入者を対象に、販売価格の検討やレシピの改良を目的としたアンケート調査を実施しました。

現在、製造および「畜大ブランド」として正式に商品化することを検討しています。

5. まちなかゼミナール（地域課題発見ゼミ）

毎月2回程度（隔週水曜日16：30～）実施。主に十勝地域の基幹産業である農業に関する課題を学生および市民・教員に発表し、それらの課題についてディスカッションすることで地域に密着した研究課題を発見することを目的に実施しました。今年度はまちなか学生寮居住の大学院生らを中心としたゼミを展開し、各院生の修士課程における研究課題について、市民らとのディスカッションを実施しました。

大学基金からご支援いただき、多くの事業を開催することができました。
心から感謝申し上げます。



賛助会員名簿

(平成29年3月31日現在)

[企業・団体等] (56団体)

(五十音順・敬称略)

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1 (有)青田企画巧芸 | 27 (株)都市田園協働ファーム |
| 2 (株)アクト | 28 合同会社トレックス |
| 3 (株)伊豆倉組 | 29 内外施設工業(株) |
| 4 出雲ペットクリニック | 30 学校法人中村学園 |
| 5 (株)ウチダシステムス北海道支社帯広支店 | 31 (株)ナスカコンピュータ |
| 6 (株)エヌシーおびひろ | 32 なりた耳鼻咽喉科アレルギー科クリニック |
| 7 (株)小澤建設 | 33 (株)日専連ジェミス |
| 8 帯広ガス(株) | 34 日本甜菜製糖(株) |
| 9 帯広商工会議所 | 35 ハラデンキ(株) |
| 10 帯広畜産大学新潟県同窓会 | 36 (株)平田建設 |
| 11 帯広地方卸売市場(株) | 37 富士金網製造(株) |
| 12 特定非営利活動法人コミュニティシンク
タンクあうるず | 38 (株)べつかい乳業興社 |
| 13 (株)ズコーシャ | 39 北王コンサルタント(株) |
| 14 (株)曾我 | 40 社会医療法人北斗 |
| 15 (株)ダイイチ | 41 (株)北海道新聞社帯広支社 |
| 16 大昭電気工業(株) | 42 北海道電力(株)帯広支店 |
| 17 税理士法人竹川会計事務所 | 43 北海道農業協同組合中央会帯広支所 |
| 18 (株)土谷特殊農機具製作所 | 44 北海道バイオマスリサーチ(株) |
| 19 デジタルグラフィックス(株) | 45 三菱商事株式会社北海道支社 |
| 20 東洋農機(株) | 46 宮坂建設工業(株) |
| 21 十勝信用組合 | 47 宮本商産(株) |
| 22 十勝地区農業協同組合長会 | 48 森産業(株) |
| 23 (株)十勝生ハム製造研究所 | 49 YS ヤマショウ(株) |
| 24 十勝農業協同組合連合会 | 50 山の下ペットクリニック |
| 25 十勝農協連畜大同窓会 | 51 (株)山本忠信商店 |
| 26 (株)十勝毎日新聞社 | 52 (株)柳月 |

不掲載希望 4 団体



(平成29年3月31日現在)

(五十音順・敬称略)

[個人・学外] (134名)

- | | | | | | |
|----|--------|----|-------|-----|-------|
| 1 | 有賀秀子 | 40 | 佐村久夫 | 79 | 林俊克 |
| 2 | 安藤弘 | 41 | 柴田雄二 | 80 | 原光昭 |
| 3 | 池上小百合 | 42 | 清水昭雄 | 81 | 久田純司 |
| 4 | 石川智之 | 43 | 清水夫美子 | 82 | 福本幸久 |
| 5 | 石田雅嗣 | 44 | 白戸綾子 | 83 | 藤田淳一 |
| 6 | 石田正人 | 45 | 末広彰 | 84 | 藤村裕一 |
| 7 | 磯野進三郎 | 46 | 鈴木一郎 | 85 | 細井一弘 |
| 8 | 市村豊 | 47 | 鈴木光則 | 86 | 堀次郎 |
| 9 | 稲田一郎 | 48 | 砂川敏文 | 87 | 増本多喜子 |
| 10 | 今田忠夫 | 49 | 高木俊雄 | 88 | 町田恭一 |
| 11 | 宇井三喜子 | 50 | 高桑修 | 89 | 松山稔 |
| 12 | 大友秀文 | 51 | 高田薫 | 90 | 三浦弘之 |
| 13 | 大宮良文 | 52 | 高橋一夫 | 91 | 三上正幸 |
| 14 | 岡功人 | 53 | 高橋秀清 | 92 | 三竹俊之 |
| 15 | 岡本明治 | 54 | 高橋剛 | 93 | 三津原勝 |
| 16 | 尾崎健臣 | 55 | 高橋利雄 | 94 | 宮本道男 |
| 17 | 鬼塚義久 | 56 | 田中秀明 | 95 | 三好雅史 |
| 18 | 影山晴 | 57 | 棚橋祐治 | 96 | 村林宏幸 |
| 19 | 梶隆悦 | 58 | 丹野久篤 | 97 | 森井恒邦 |
| 20 | 勝俣和二彦 | 59 | 塚本謙一郎 | 98 | 森田英敬 |
| 21 | 加藤良寛 | 60 | 敦賀宣夫 | 99 | 森本元二 |
| 22 | 加納良寛 | 61 | 出口建治 | 100 | 諸角英光 |
| 23 | 加村敏雄 | 62 | 鳥羽俊郎 | 101 | 八木徳弘 |
| 24 | 河口和吉 | 63 | 富山成也 | 102 | 矢木沢博 |
| 25 | 川崎寧雄 | 64 | 中井欣三 | 103 | 山下睦弘 |
| 26 | 菅野典高 | 65 | 中川欣三 | 104 | 山根睦朗 |
| 27 | 菅原秀高 | 66 | 中島靖枝 | 105 | 由佐壽敏 |
| 28 | 楠原政男 | 67 | 中島嘉貴 | 106 | 横山誠人 |
| 29 | 久保田志之利 | 68 | 仲野和靖 | 107 | 横山惠介 |
| 30 | 栗田裕弘 | 69 | 名和武久 | 108 | 吉川晴美 |
| 31 | 後藤温子 | 70 | 西武久 | 109 | 吉川武徳 |
| 32 | 齋藤泰裕 | 71 | 西佐古讓 | 110 | 吉田茂昭 |
| 33 | 三枝清治 | 72 | 西田隆典 | 111 | 吉野英治 |
| 34 | 坂井一也 | 73 | 新田浩道 | 112 | 吉村忠一 |
| 35 | 佐藤慶岩 | 74 | 野川清志 | 113 | 米川雅一 |
| 36 | 佐藤淳佳 | 75 | 羽柴昭夫 | 114 | 和田明 |
| 37 | 佐藤基佳 | 76 | 羽田濱崎 | 115 | |
| 38 | 佐藤幸男 | 77 | 林克昌 | | |
| 39 | 佐野 | 78 | 林 | | |

不掲載希望 19名



(平成29年3月31日現在)

(五十音順・敬称略)

【個人・学内】 (169名)

- | | | | | | |
|----|-------|----|-------|-----|-------|
| 1 | 相内大吾 | 41 | 木林透 | 81 | 南保泰雄 |
| 2 | 浅野昇一 | 42 | 木村賢人 | 82 | 西田慎吾 |
| 3 | 五十嵐郁男 | 43 | 木村美紀 | 83 | 西田武弘 |
| 4 | 生田和哉 | 44 | 姜興起 | 84 | 野並雅章 |
| 5 | 石井利明 | 45 | 口田圭吾 | 85 | 萩谷功一 |
| 6 | 石原貴文 | 46 | 川島千帆 | 86 | 橋本靖 |
| 7 | 石割厚希 | 47 | 窪田さと子 | 87 | 花田正明 |
| 8 | 伊藤鮎美 | 48 | 倉園久生 | 88 | 羽田真悟 |
| 9 | 井上昇 | 49 | 玄学南 | 89 | 早坂和明 |
| 10 | 猪熊壽俊 | 50 | 小疇浩 | 90 | 早坂美穂 |
| 11 | 今井邦子 | 51 | 耕野拓一 | 91 | 韓圭 |
| 12 | 内田伸一 | 52 | 小島正志朗 | 92 | 日高智広 |
| 13 | 梅津一孝 | 53 | 小山耕平 | 93 | 福島道二 |
| 14 | 浦島匡 | 54 | 齐藤準 | 94 | 福田健 |
| 15 | 大石明広 | 55 | 佐久間育子 | 95 | 堀内雅 |
| 16 | 太田晶久 | 56 | 佐々木基樹 | 96 | 堀田努 |
| 17 | 大坪秀典 | 57 | 佐藤健一 | 97 | 牧祐紀夫 |
| 18 | 大西明美 | 58 | 佐藤禎稔 | 98 | 舛川正晃 |
| 19 | 大西一光 | 59 | 芝野健一 | 99 | 松浦佳子 |
| 20 | 大橋穰子 | 60 | 坂本さや香 | 100 | 松本高太郎 |
| 21 | 大林姿子 | 61 | 杉田聡 | 101 | 三浦秀穂 |
| 22 | 大和田琢二 | 62 | 杉田帆奈美 | 102 | 宮原和郎 |
| 23 | 小川晴子 | 63 | 鈴木孝幸 | 103 | 宗岡寿美 |
| 24 | 奥田潔 | 64 | 鈴木真理子 | 104 | 村上文朗 |
| 25 | 奥村香世 | 65 | 仙北谷康 | 105 | 村田浩一郎 |
| 26 | 小田賢一 | 66 | 高石竜一 | 106 | 村西由紀 |
| 27 | 小田有二 | 67 | 高橋伸治 | 107 | 森正文彦 |
| 28 | 折笠善丈 | 68 | 武田一夫 | 108 | 森松文毅 |
| 29 | 海田芳隆 | 69 | 谷昌幸 | 109 | 矢島大彰 |
| 30 | 角田裕喜美 | 70 | 田之畑由希 | 110 | 柳川久 |
| 31 | 笠原誠人 | 71 | 千葉三都希 | 111 | 山内宏昭 |
| 32 | 春日純 | 72 | 塚本孝志 | 112 | 山口将 |
| 33 | 加藤豊 | 73 | 辻修 | 113 | 山崎栄樹 |
| 34 | 門平睦代 | 74 | 手塚雅文 | 114 | 山本眞樹夫 |
| 35 | 門屋充郎 | 75 | 藤倉雄司 | 115 | 横町直明 |
| 36 | 金山紀久 | 76 | 得字圭彦 | 116 | 横山直明 |
| 37 | 嘉屋元博 | 77 | 豊留孝仁 | 117 | 吉野綾華 |
| 38 | 茅野光範 | 78 | 中島司典 | 118 | 若木海理 |
| 39 | 川村正洋 | 79 | 中野昌明 | 119 | 和田大輔 |
| 40 | 岸本正 | 80 | 中村公英 | | |

不掲載希望 50名



その他の寄附者名簿

(平成29年3月31日現在)

(五十音順・敬称略)

【個人】(77名)

1 安部 忍	18 小嶋 秀樹	35 仁木 博彦
2 雨宮 嘉宏	19 小玉 健次郎	36 仁木 政美
3 池田 奉昭	20 近藤 正治	37 野村 栄吉
4 池田 友次	21 齋藤 一	38 早坂 貴代史
5 池永 雅一	22 佐藤 理映	39 早坂 純一
6 石川 諭史	23 清水 眞	40 深沢 晃
7 石橋 洋	24 鈴木 孝次	41 藤井 幸人
8 伊藤 道秋	25 鈴木 建晴	42 不二崎 順二
9 大星 建治	26 瀬子 明代	43 藤代 寛
10 岡田 裕昭	27 千田 耕一	44 益田 邦郎
11 岡本 昌之	28 高橋 次夫	45 三浦 輝男
12 小田 治義	29 高橋 良平	46 三浦 美津子
13 折橋 秀夫	30 高本 豊壽	47 村上 豊
14 笠井 昭子	31 田中 静幸	48 守 祐子
15 印牧 馨	32 千村 晶子	49 山本 哲也
16 川手 憲俊	33 土門 由紀	50 吉田 定弘
17 菅野 宗夫	34 中岡 祐司	51 渡辺 睦実

不掲載希望 26名

大学基金寄附者に感謝状を贈呈

平成28年9月5日(月)大学基金の賛助会員として多大なご支援をいただいた本学前学長 長澤秀行氏(とちかち財団理事長)に対して、奥田潔学長より感謝状を贈呈しました。

この感謝状は、平成22年4月に帯広畜産大学基金を創設以来、企業・団体等にあっては100万円以上、個人にあっては50万円以上のご寄附をいただいた方に対し、大学基金で定める「謝意表明の基本方針」に基づき、贈呈したものです。

感謝状の贈呈は、とちかち財団会議室において奥田学長から長澤とちかち財団理事長へ手渡されました。

なお、来年度以降もこの「謝意表明の基本方針」に基づき、該当される方には感謝状を贈呈するとともに、企業・団体等で20万円以上、個人にあっては10万円以上の寄附をされた方には、本学「かしわプラザ」に設置してある銘板に掲載いたします。

今後とも、大学基金の賛助会員加入及び大学基金へのご寄附について、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



奥田学長、長澤理事長(左から)



各同窓会支部会等への出席

平成28年度に開催された、各同窓会の支部会へ奥田学長及び教職員が出席し、同窓生の皆様と懇親を深めました。



6月19日 関東同窓会



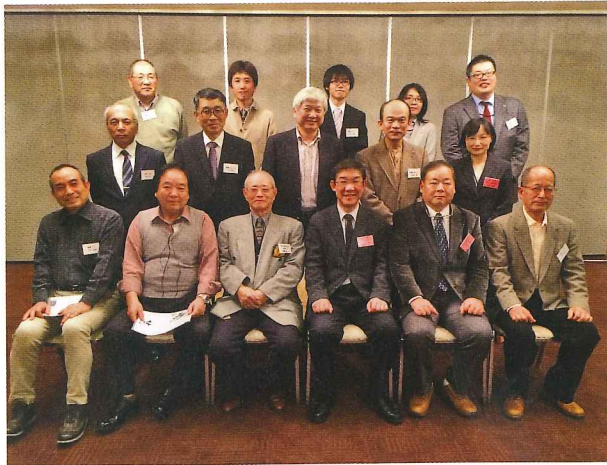
10月22日 釧路支部



10月29日 福島県支部



11月5日 新潟県支部



11月19日 岡山県支部



11月26日 九州・沖縄県支部



2月10日 畜大有志同窓会



2月24日 石川県支部



帯広畜産大学基金運営委員会委員名簿

構成員 16名（任期2年：平成28年4月1日～平成30年3月31日）

	職 名	氏 名
委員長	帯広畜産大学 学長	奥 田 潔
委 員	宮坂建設工業(株) 代表取締役社長	宮 坂 寿 文
	よつ葉乳業(株) 常務取締役 十勝主管工場長	川 瀬 博 教
	日本甜菜製糖(株) 取締役	鈴 木 良 幸
	(株)ズコーシャ 代表取締役社長	関 本 裕 至
	十勝農業協同組合連合会 専務理事	高 橋 英 三
	帯広商工会議所 会頭	高 橋 勝 坦
	(株)土谷特殊農機具製作所 代表取締役社長	土 谷 紀 明
	(株)十勝毎日新聞社 代表取締役社長	林 浩 史
	帯広信用金庫 会長	増 田 正 二
	帯広畜産大学同窓会 会長	砂 川 敏 文
	帯広畜産大学 理事	柳 川 久
	帯広畜産大学 理事	井 上 昇
	帯広畜産大学 理事	門 屋 充 郎
	帯広畜産大学 副学長	倉 園 久 生
帯広畜産大学 副学長・事務局長	横 町 直 明	



国立大学法人帯広畜産大学基金規程

(平成22年1月21日規程第1号)

改正 平成28年7月29日規程 第30号 平成29年3月28日規程第15号

(設置)

第1条 国立大学法人帯広畜産大学（以下「本学」という。）に、経済的理由により修学に困難がある学生等を対象とした修学環境を支援するための基金として学生修学支援事業基金を、また大学運営及び社会貢献に関する活動を支援するための基金として大学運営支援事業基金を置く。

(学生修学支援事業基金)

第2条 学生修学支援事業基金は、次の各号に掲げる事業の用に供するものとする。

- (1) 授業料、入学料又は寄宿料の免除等の経済的負担の軽減を図る事業
- (2) 学費を貸与又は給付する事業
- (3) 海外留学費用を給付する事業
- (4) 教育研究業務に従事させるための雇用経費を支給する事業

2 学生修学支援事業基金は、前項に定める事業を寄附目的とする寄附及びその運用による果実をもって構成する。

(大学運営支援事業基金)

第3条 大学運営支援事業基金は、次の各号に掲げる事業の用に供するものとする。但し、前条第1項に掲げる事業を除く。

- (1) 教育研究環境の整備に関する事業
- (2) 社会貢献活動の支援に関する事業
- (3) 産業界、同窓生との連携に関する事業
- (4) その他本学運営のために必要な事業

2 大学運営支援事業基金は、前項に定める事業を目的とする寄附及びその運用による果実をもって構成する。

(基金の使途)

第4条 学長は、学生修学支援事業基金及び大学運営支援事業基金（以下「各基金」という。）の寄附の受入の決定にあたり、寄附者があらかじめ使途を特定しない場合においては、これを特定しなければならない。

2 各基金に対して納付された寄附金の使途は、変更してはならない。

(基金の運営)

第5条 各基金はそれぞれ区分して経理することとし、その運営は、各基金毎に受け入れる寄附及びその果実をもって充てる。

2 各基金の運営に関する重要事項の審議は、帯広畜産大学基金運営委員会（以下「委員会」という。）が行う。

3 委員会の組織運営等については、別に定める。

(賛助会員)

第6条 各基金の目的に賛同する者は、学長の承認を受けて賛助会員となることができる。

2 賛助会員及び賛助会費に関し必要な事項は、別に定める。



(事業年度)

第7条 各基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(庶務)

第8条 各基金の庶務は、事務局関係課等の協力を得て、総務課基金・広報戦略室において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、各基金の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成22年1月21日から施行する。

附 則 (平成28年7月29日規程第30号)

この規程は、平成28年7月29日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則 (平成29年3月28日規程第15号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。



国立大学法人帯広畜産大学基金賛助会員規程

(平成22年1月21日規程第2号)

改正 平成28年7月29日規程第31号

(趣 旨)

第1条 国立大学法人帯広畜産大学基金規程(平成22年規程第1号)第6条第2項の規定に基づき、国立大学法人帯広畜産大学基金(以下「基金」という。)の事業活動をより充実したものとするため、この規程を定める。

(賛助会員)

第2条 賛助会員は、基金の目的に賛同し、事業に協力するものであって、様式1の申込書を提出し、かつ、この規程に定める賛助会費を納付した者とする。

(賛助会費)

第3条 賛助会費の額は、次のとおりとし、1口以上を申しこむことができる。

- (1) 個人会員の場合は、1口年額5千円とする。ただし、教職員については、1口月額500円として申し込むことができる。
- (2) 法人・団体会員の場合は、1口年額1万円とする。

(賛助会員の脱会等)

第4条 賛助会員で脱会しようとする者は、様式2の脱会届を提出するものとする。

2 賛助会員が賛助会費を納付しない時は、脱会したものとみなす。

(賛助会費納付金の運用)

第5条 賛助会員から納付された賛助会費は、基金の運用財産収入又は基本財産収入として経理し、運用する。

附 則

この規程は、平成22年1月21日から施行する。

附 則(平成28年7月29日規程第31号)

この規程は、平成28年7月29日から施行する。



様式 1

平成 年 月 日

賛助会員申込書

国立大学法人帯広畜産大学長 殿

申 込 者

郵便番号

住 所

電話番号

氏 名

印

帯広畜産大学基金の目的に賛同し、事業に協力するため賛助会員として加入したく申し込みます。

記

賛助会費申込回数

なお、会費の納付については、

- ・銀行振込で納付する。
- ・現金で納付する。

(いずれかに○印をお願いします。)



様式 2

平成 年 月 日

賛助会員脱会届

国立大学法人帯広畜産大学長 殿

脱 会 者

郵便番号

住 所

電話番号

FAX番号

会 社 名

代表者

印

団 体 名

代表者

印

個 人 名

印

都合により、帯広畜産大学基金の賛助会員を脱会したいのでお届けします。



国立大学法人帯広畜産大学基金運営委員会細則

(平成22年1月21日細則第1号)

改正 平成24年2月16日 細則第12号 平成27年6月2日細則第7号

平成28年5月24日 細則第4号

(趣 旨)

第1条 この細則は、国立大学法人帯広畜産大学基金規程（平成22年規程第1号）第5条第3項の規定に基づき、国立大学法人帯広畜産大学基金運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任 務)

第2条 委員会は、帯広畜産大学基金（以下「基金」という。）の管理及び運営に関する次に掲げる事項について審議を行う。

- (1) 事業計画に関する事項
- (2) 基金の予算及び決算に関する事項
- (3) 寄附の受け入れ及びその運用に関する事項
- (4) 寄附者への謝意表明の基本方針に関する事項
- (5) その他基金の管理及び運営に関する重要事項

(組 織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 理事
- (3) 大学の役員及び職員以外で大学に関し広くかつ高い識見を有するもののうちから、学長が指名する者 若干人
- (4) 帯広畜産大学同窓会役員の中から学長が指名する者 若干人
- (5) 事務局長
- (6) その他学長が必要と認めた者 若干人

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠又は増員による委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(会 議)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席し、かつ、第3条第3号の委員のうち少なくとも1名が出席しなければ、会議を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。



(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させて、その者から説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、事務局関係課等の協力を得て、基金・広報戦略室において処理する。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この細則は、平成22年1月21日から施行する。
- 2 この細則施行後、最初に任命される第3条第3号、第4号及び第6号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則 (平成24年2月16日細則第12号)

この細則は、平成24年2月16日から施行する。

